

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344

「作業療法課 — 昔～今そしてこれから —」

作業療法課主任 江戸 晶子

久しぶりに復活したユニフォームに「おそろいのジャージよう似合っとるで」と声を掛けていただけたこともなくなり、大きな変化も時間の経過とともにしだいに馴染んだ景色になっていくものと、人の柔軟さに感心すると同時に少し寂しさを感じます。当院の作業療法(以下OT)も患者様のニーズにそって、その時代その時代の流れにあわせ容(かたち)を変えながら現在に至っていますが、今また新たな節目を迎えていると言えるかも知れません。平成に入り、現在行なわれているOTグループ(以下OTG)の活動が活発化する中で、三愛学園、屋外作業部門が規模を縮小しつつ終了しました。そして昨年12月末、ついに室内作業部門(簡易生産活動)がその50余年の長い歴史に幕をおろしました。その後4カ月を経過しようとしている今、OT課はその役割を十分果たしているか? 自分自身に問い直しているところです。

現在OT課には作業療法士(以下OTR)11名(認知症治療棟専属OTR1名、デイケア専属OTR1名の2名を含む)と作業療法助手(以下OTA)3名の総勢14名が日々の業務に当たっています。病院の基本方針に則って「①長期入院患者様の退院・社会復帰を促進する②新しく入院された方が早期に退院できるように援助する③外来作業療法を充実させ、地域生活されている方々の再発・再入院を防止する」を目標として、入院患者様には病棟担当制推進、外来患者様には外来OTの充実を図るべく努力を続けています。

具体的には、病棟レクグループ、OTG、クラブ活動の中で、個々の目的に応じた集団レクから個別ケアまで様々なプログラムを計画・実施しています。現在1日平均160名ほどの参加がありますが、病院全体を考えると目標には遠い数値と言えます。患者様の治療には多職種によるチーム医療が欠かせないことがすでに言われていますが、今後のOTの展開にも看護を始めとする他部門の協力は欠かせないものです。病棟レク中に広がる患者様の“笑み”は、今もそしてこれからも、残念ながらOTだけでは引き出すことは難しいでしょう。“笑み”=“快”は活動の原動力です。病棟でOT室でそして様々な場所で患者様の“笑顔”に会いたいと思います。

その機会のひとつとして平成20年7月から訪問看護に協力させていただくようになりました。週一回という限られた時間の中で、外来通院されている方、入院時そして退院後と継続して関わる方もあり、生活の場に向いて生活全体を見て支援していくことは、入院中のOTにも遡って“私達に今求められているもの”を考える絶好の機会となっています。また、同年4月に開設された障害者就業・生活支援センターくばらにも出向しており、就業に向けて社会生活技能の取得という大きな目標の下援助の一翼を担っています。

一方外来OTにおいても、単独午後枠にしたことで今まで以上に生活に即した援助が可能になりました。10月からは栄養管理課の協力を得て、栄養教室・調理実習を実施しており、OT自身も食について豆知識を得て実際に調理指導していただくことで一参加者の目線も持ちながら活動する貴重な時間を経験しています。

以上、長い経過の中では様々なOTが展開されてきましたが、活動場所や種目が違って私達が目的とするところは常に患者様の主体的な生活の獲得であり、よりよい社会生活が営めるように援助することです。平成21年度のOT課は、病院の取り組みに則し、現状をしっかりと捉え、自分たちに出来るよりよいOT活動を模索しながら進んでいきたいと思えます。退院に向けた取り組み、身体機能に問題を持つ患者様のケア、急性期のOTなど多様化するニーズにも応えられるよう個別性にも重点をおきフットワークを軽くして業務に臨みます。常に『アクティビティ』をボールに患者様とのキャッチボールを続けていけるOTとして…



「三船病院デイケアの新たな取り組みと今後の展望」

デイケア室課長 國宗 聖子

第5号(2004年9月発行)でデイケアのご紹介をして以来、早5年が経とうとしています。この5年を振り返り、新たな取り組みの展開や将来的な展望を含め、改めてデイケアの現状をお伝えしたいと思います。

当院デイケアは昭和 56年4月に認可を受け、現在定員50人の大規模デイケアとして運営しています。開設以来精神科治療及びリハビリテーションの一環として、集団での活動(プログラム)と個別的な対応を通じ、地域社会で生活する利用者を支える重要な役割の一端を担ってまいりました。

近年の主な動きとして、平成17年4月から送迎サービスを開始し、院内での退院支援活動も重なり新規参加者が増え、1日平均参加者数も30人前後と前年度より約10人程増加しました。平成18年度からはショートケア(1日3時間、やむを得ない場合に限り利用可)を新設しました。また前年度からの参加者数の増加に伴い、担当医師を1名から2名に増員、看護師1名、作業療法士1名、精神保健福祉士2名の計6名となり、就労支援担当(精神保健福祉士1名)を設け、これまで埋もれていた就労へのニーズを発掘し、三愛会の就労支援事業を通じて具体的な支援を行えるようになりました。障害者就業・生活支援センターくばらをはじめ法人内外の機関と連携しながら、現在までに5名の方が就職され徐々に成果を上げています。

活動内容(プログラム)については、平成16年度から始めたガラス細工も工夫を凝らしながら継続し、院内外の各種イベントで販売しています。これは利用者様の創作活動に対する意欲の向上及び当院デイケアのPRと

地域交流または社会参加に役立てることを目的としており、収益はデイケア収入管理委員会において公平かつ適正に還元しております。その他スポーツを通じて他施設と交流を行い、レクリエーションや社会見学では利用者自身で企画し地域の様々な施設やイベントに触れる機会を設けています。またスタッフは日々デイケアにおける日常的な出来事や役割等人間模様を含めた様々な体験が利用者様にとって貴重な経験となり、それぞれの目標に向かって歩む一歩となるよう側面的なサポートを心掛けながら共に活動しています。

平成21年度は、個々のニーズに対応しより多くの方にデイケアを有効活用していただくため、プログラム内容や形式、個別援助方法、送迎サービスの再検討をしていきます。また地域と医療を繋ぐ地域生活支援の一端を担うものとして、他部署他機関との連携強化や家族へのアプローチの充実(家族会開催等)、そして就労支援にも力を入れたいと考えております。また多くの方にデイケアを知っていただけるよう、まずは院内に向けて積極的なアピール(オープンデイケア等)も行っていきたいと思っております。

将来的な展望として参加者の増加を目指しますが、それに伴い年齢やニーズの幅が大きく広がることが予想されます。スタッフの人員や施設面の配備、活動形式や内容の変更など、今後も利用者様へのサービスと利益の向上を図るべく、質の高いデイケアの実践を目指していく所存です。

三船病院医師からのメッセージ...

「朝起きられない」の対処法

三船病院非常勤医師 石原 さやか

朝起きることに苦労しているのは私だけでしょうか？ 人間の「起床―就寝」のリズムは、朝起きた時に太陽光などの高照度光を浴びることによって保たれています。この「朝起きたとき」というのがポイントで、光を浴びた後一定時間(約1〜1.4時間とされています)は覚醒状態を保ち、その後睡眠状態に入ります。

ところが、夜更かしが続いたり、深夜に照明の明るい店(コンビニなど)に行くと、このリズムが崩れてしまい「起床―就寝」の時刻がだんだんと後ろにずれてきます。最初は生活習慣の改善で修正できるのですが、ひどくなるとどこんなに寝ようとしても寝られず、また起きたい時間にも起きられなくなり通勤や通学に支障をきたすことがあります。このような状態を「睡眠相後退症候群」とよび、入院治療を受けることもあります。主な治療法は「光療法」ですが、それを応用した家でもできる睡眠リズム改善法を紹介します。

- ① 起床したい時刻よりも2時間くらい早い時間から枕元に蛍光灯を置いて光を浴びる
- ② 朝日が入る部屋を寝室とし、カーテンを開けて寝る
- ③ 朝からうじて起きられている場合は起きてすぐに朝日を浴びるか蛍光灯を間近に浴びる。

三愛会 トピックス



★三船病院クリスマス会

12月24日(水)毎年恒例のクリスマス会を開催しました。ゲストに和風バンド「まほろば」をお迎えし、クリスマスソングなどの演奏、そして三船病院作業療法士によるハンドベルの演奏がありました。

またからあげ、フランクフルト、大判焼き、ケーキ、ジュースなどのバザーも行い、たくさんの方が利用されました。



★第21回相談室セミナー

2月7日(土)就労支援をテーマに「仕事について考えよう!」と題して第21回相談室セミナーを開催しました。昨年4月に開所した障害者就業・生活支援センターくばらの高田裕子センター長より、くばらの紹介と働くための準備や利用できるサービスについて説明があり、入院中の方9名、外来通院中の方3名が参加されました。



三船病院 委員会活動紹介

「 褥瘡予防対策委員会 」

委員長 三船病院医師 山城 征

この委員会は、褥瘡の予防、治療を推進し、それに關する事項を評価、検討することを目的としています。

毎月、褥瘡対策チームが栄養士と連携しながら病棟を回診し、日常生活自立度の低い方および褥瘡保有者に関する情報収集を行い、その結果を基に褥瘡予防対策委員会を月1回開催し、病院全体の褥瘡予防、治療に対する評価、何地の症例に対する検討を行います。

褥瘡の発生および憎悪因子として活動性低下、低栄養状態、糖尿病、感染症等が挙げられます。入院患者様の高齢化が進むにあたり、適正な薬物療法、栄養状態の維持ができているか、いっそう検討する必要があります。

褥瘡の治療法は日々刷新されており、新しい治療法としてラップ療法が当院で採用されています。簡便で安価に施行できるため汎用されていますが、改善しにくい症例があることも否めません。今後は適応症例の見極めが重要と考えております。



《委員会》

- | | | |
|--------------------|---------------------|-------------------|
| ・教育委員会(第1水曜日) | ・衛生委員会(第2水曜日) | ・病院機能評価委員会(水曜日) |
| ・個人情報保護委員会(第1水曜日) | ・業務改善委員会(第2水曜日) | ・倫理委員会(年1回) |
| ・情報システム委員会(第1水曜日) | ・診療録管理委員会(第3金曜日) | ・医療ガス安全管理委員会(年1回) |
| ・クリニカルパス委員会(第1水曜日) | ・薬事審議委員会(第1水曜日) | ・予算管理委員会(年1回) |
| ・地域生活支援委員会(第1水曜日) | ・院内感染対策委員会(第3金曜日) | ・接遇管理委員会(年2回) |
| ・行動制限最小化委員会(第1金曜日) | ・栄養管理委員会(第2水曜日) | ・診療情報提供委員会(随時) |
| ・人権委員会(第1金曜日) | ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日) | |
| ・医療安全管理委員会(第2水曜日) | ・患者サービス向上委員会(第2水曜日) | |



【介護老人保健施設 福寿荘】

介護福祉士 山岡 輝子

就職して5年が経ち、介護福祉士養成の実習指導者の仕事を頂き2年が経ちました。福寿荘には専門学校などから年間30名ほどの学生が実習に来ています。実習中には、施設概要の説明や食事・入浴・排泄などの介助方法の説明、行事やレクリエーションの見学・参加などをしてもらうように勧めています。指導者としては経験が浅く、毎日が勉強で指導することの難しさを痛感する日々であり、教える立場になって改めて自分自身の仕事を見直す良い機会になっています。

実習生は、決められた実習期間の中でいろいろな課題に取り組んでいます。受け持ち利用者を決め、情報収集やサービスの立案、レクリエーションの実施、中には夜勤業務なども勉強します。実習生の新鮮な目の付け所に、私もとても勉強になります。介護福祉士を目指し一生懸命実習に取り組む姿に、良い刺激を受け指導しています。慣れない実習の中で、行き詰まったり不安や問題が起こったりした時、気がつき相談にのることができるよう、精神的な面でも支えられる指導者になりたいものです。また、これから実習に来る学生が、のびのびと実習に取り組められるような環境づくりを提供していきたいです。そして、福寿荘で経験した事をこれからの人生に活かせていってもらえたらと思っています。

【三愛会コミュニティケアセンター】



相談支援専門員 香川 沙奈江

平成18年10月障害者自立支援法の施行により、「地域生活支援センターはなぞの」は「地域活動支援センターはなぞの」と「相談支援事業所はなぞの」の2つの施設体系に移行し、早2年半が経過しました。

「相談支援事業所はなぞの」は、市町村が実施主体である地域生活支援事業の「障害者相談支援事業」の委託を受け、相談支援を行っています。平成20年度は県下全市町の委託を受けて実施し、相談支援専門員（精神保健福祉士）2名で相談業務を行っています。これまでは、地域生活支援センターに利用登録をされた方々のご相談に応じることが主でしたが、移行してからは、広く市民・町民の方々からのご相談も増えてきました。精神障害のあるご本人さんやご家族の方、関係者の方からご相談をお受けしますが、その内容は多岐に亘ります。日常生活上の様々な悩みや困りごとに関する事、障害福祉サービス（ホームヘルプサービスやショートステイ等）の利用・調整に関する事、地域の社会資源や生活情報の提供・活用に関する事、病院や施設からの退院・退所後の生活に関する事、専門機関の紹介等です。電話や面接、家庭訪問による相談対応の他、日常生活上の支援や同行支援、サービス利用計画の作成、ケア会議の開催・出席、近隣の市町への出向相談を行っています。

また、中讃西部圏域（2市3町）に、「地域自立支援協議会」が設置され、圏域内の相談支援事業所と共に事務局として携わっています。今後、さらに障害福祉サービスに関する協議の場として機能するよう、関係機関や地域住民の方々や協働し地域づくりにも力を入れていきたいと思っています。相談業務においても、市町や関係機関等と連携を図りながら柔軟に活動し、精神障害に関する相談窓口として地域の皆様に活用して頂けるよう努めたいと思っています。

《三船病院からのお知らせ》

【行事予定】

○三船病院家族会

日時：5月10日（日）9:00～

場所：三船病院

内容：バザー及び即売会 9:00～

演芸会 9:40～



《編集後記》

花の便りが次々と舞い込むこのごろ、みなさまいかがお過ごしでしょうか？今回は三船病院として今年度よりいっそう力を入れて取り組んでいく部門として作業療法課とデイケアの紹介を行いました。

5月10日（日）三船病院家族会では、第14回家族教室「作業療法について」を行います。作業療法課の活動、取り組みについてさらに詳しくご説明致しますので、ご家族の皆様お気軽にご参加ください。（三船病院相談室PSW）